


研究者総覧：伊東章子 (ITO, Akiko)

氏名	伊東 章子 (ITO, Akiko)	
職名	特任講師	
所属	国際交流協力推進本部	
学位（専攻分野）	学術博士（日本研究） 総合研究大学院大学比較文化研究科	
メールアドレス	itoh-a@lang.nagoya-u.ac.jp	
個人のホームページ	http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/staff/itoh-a.html	
研究分野	日本近現代技術史 科学観の比較文化	
現在の研究テーマ	電気治療からみる身体観の比較文化史	
所属学会	History of Science Society American Association of History of Medicine International Society of the History of East Asian Science, Technology and Medicine	
主要著書・論文	Akiko Ito, 'How Electricity Energizes the Body: Electrotherapeutics and its Analogy of Life in the Japanese Medical Context,' <i>Science between Europe and Asia: Historical Studies on the Transmission, Adoption and Adaptation Knowledge</i> (Boston Studies in the Philosophy and History of Science), 2011. 伊東章子「電気業界関連団体の国民向け啓蒙活動—日本電気協会と家庭電気普及会」猪木武徳編『戦間期日本の社会集団とネットワーク—デモクラシーと中間団体』2009年 NTT 出版 伊東章子「戦後日本社会におけるナショナル・アイデンティティの表象と科学技術—新聞広告を手がかりに」中谷猛ほか編『ナショナル・アイデンティティ論の現在—現代社会を読み解くために』晃洋書房	
自己紹介文	今まで主として二つの研究テーマに取り組んできました。一つ目のテーマは、近現代日本のナショナリズムの発現やナショナル・アイデンティティの形成において科学技術が果たした役割に関する研究です。近現代日本ではナショナリズムが高まりを見せた時期と重なるように、日本の科学技術の優位性や西洋の近代科学とは異なる特殊性が活発に論じられてきました。例えば明治期の殖産興業と西洋科学の導入、第二次世界大戦時の総力戦体制下における科学振興・科学動員政策、戦後高度成長期における「科学技術立国」論などがその事例です。そしてこれらの議論に共通したのが、日本の科	

	<p>学技術には西洋の科学技術が持ち得ない特殊性が内在し、その特殊性とは日本人の国民性や日本文化の特質から生れると考える科学観でした。このような科学観に着目して、時代により変化する政治・経済・文化状況の中で国家や社会が科学技術にどのような価値や有用性を見出したのか、そして科学技術が人々の想像力や未来への志向性へどう働きかけたのかについて考察してきました。</p> <p>二つ目の研究テーマは、科学技術の発展、とりわけ電気技術の発展が近代日本の身体観や生命観に及ぼした影響についてです。日本においては、大正から昭和初期にかけて電気技術が都市の風景や人々の生活環境を劇的に変化させました。電車や地下鉄が次々に都市と近郊を結び、街にはネオンが輝き、家庭用電灯も全国的に広く普及しました。さらには家庭電化製品も次々と市場に登場し始めます。このように日常生活にまで普及していった電気技術が、どのように人々の自らの身体や生命の営みを観る目を変えていったのかが研究テーマです。ここで特に電気技術に着目するのは、17世紀から20世紀初頭のヨーロッパやアメリカで、電気が神経を通じて体中を巡る精気・生命力 (vital energy) と同一視されてきたからです。電気はヨーロッパやアメリカにおける生命観・身体観に深く浸透して、医学研究や医療行為に電気理論や技術が取り込まれたばかりではなく、商業的な健康文化の興隆にも大きく寄与しました。このような電気と精気のアナロジーが西洋医学の導入とともに日本でどのように紹介され、また理解されたのか (されなかったのか) について考えることで、身体観の比較文化史的考察を試みています。</p>
<p>受験生へのメッセージ</p>	<p>私はこれまで自分の研究・教育に励む傍ら、大学の国際交流や留学生支援などの業務にも積極的に携わって来ました。現在も国際言語文化研究科で留学生の担当をしています。私自身が海外で留学、研究、就職 (さらには結婚、出産、子育てまで!) した経験を生かして、留学生が実り多い学生生活を送れるようバックアップしたいと考えています。また日本人学生からの留学相談にも応じています。</p> <p>これから受験や進学予定のみなさんには、ぜひ大学で国際的な経験をどんどん積んで欲しいと思います。名古屋大学には国際交流のチャンスがたくさんあります。留学、語学研修、海外インターンシップなどの各種制度はもちろん、留学生との交流会、異文化体験イベント、留学生のチューターなど気軽に参加できるものまで。若い時に国際的な視野を身につけることは、良い意味でその後の人生を大きく左右します。頭も体もフットワークの軽いうちに、ぜひ世界</p>

に飛び込む第一歩を踏み出してください。